

2-2-6項 FP (ペデスタル注水-注水継続) (図-6参照)

操 作 順 序	操 作 内 容	確 認 事 項	操 作 場 所	確 認										
	AM対応操作を実施中、RPV破損が確認されMUW系によるペデスタル注水が不可能な場合に本操作を実施する。													
1	M/D消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプを起動する。		9-6											
2	RHR(B)系のドライウェルスプレイラインを經由してドライウェル注水を実施して、ペデスタル床に注水する。 (1) ドライウェルスプレイ弁 (MO-10-26B, 31B) 全開 (2) RHR注入弁 (MO-10-25B, 27B) 全開 ※ (RPV注水中は弁全開 (RPV健全性)) (3) ヘッドスプレイ隔離弁 (MO-10-32, 33) 全開 ※ (RPV注水中は弁調整開中 (RPV破損時)) (4) 圧力抑制室第二スプレイ弁 (MO-10-39B) 全開 (5) RHRヘッダー連絡弁 (MO-10-20) 全開	Ⓡ点灯 Ⓢ点灯 (Ⓡ点灯) Ⓢ点灯 (Ⓡ点灯, Ⓢ点灯) Ⓢ点灯 "	9-3 " " " " "											
3	FP系からMUW系へ通水するため以下の弁を全開にする。 (1) FP-MUW連絡弁第一弁 (MO-79-1250) 全開 (2) FP-MUW連絡弁第二弁 (MO-79-1251) 全開	Ⓢ点灯, Ⓡ消灯 "	9-99 "											
4	D/Wクローラーが全台停止していることを確認する。 (1) D/W HVH 16A~E	Ⓢ点灯, Ⓡ消灯	9-25											
5	RPV/PCV注入ライン流量調節弁(MO-10-111)を開にし、D/W代替注水流量計(FI-57-103)にて原子炉スクラム後の経過時間に応じた必要注水量に調整する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>原子炉スクラム後の経過時間(hr)</th> <th>必要注水量 (m³/hr)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0~5</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>5~10</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>10~20</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>20hr以降</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	原子炉スクラム後の経過時間(hr)	必要注水量 (m ³ /hr)	0~5	35	5~10	32	10~20	28	20hr以降	25	Ⓡ点灯, Ⓢ点灯 FI-57-103	9-99 "	
原子炉スクラム後の経過時間(hr)	必要注水量 (m ³ /hr)													
0~5	35													
5~10	32													
10~20	28													
20hr以降	25													
6	並行操作でRPV代替注水を実施中の場合は、各注入弁の開度を各々調整し、流量配分に注意する。	FI-57-103	9-99 9-3											
7	ポンプ台数の関係で流量が不足し、それぞれの箇所への代替注水が並行操作で行えない場合は、以下の優先順位とする。 1. 格納容器 2. ペデスタル 3. 原子炉													
8	外部水源によるペデスタル注水を実施中は外部水源注水総量を監視し、サブプレッションチェンバーベントラインの水没防止のため、注水総量2300m ³ に到達にてペデスタル注水を停止する。													
9	CSTの水位が補給により回復したならば、必要又は状況に応じて、MUW系によるペデスタル注水に切替える。													

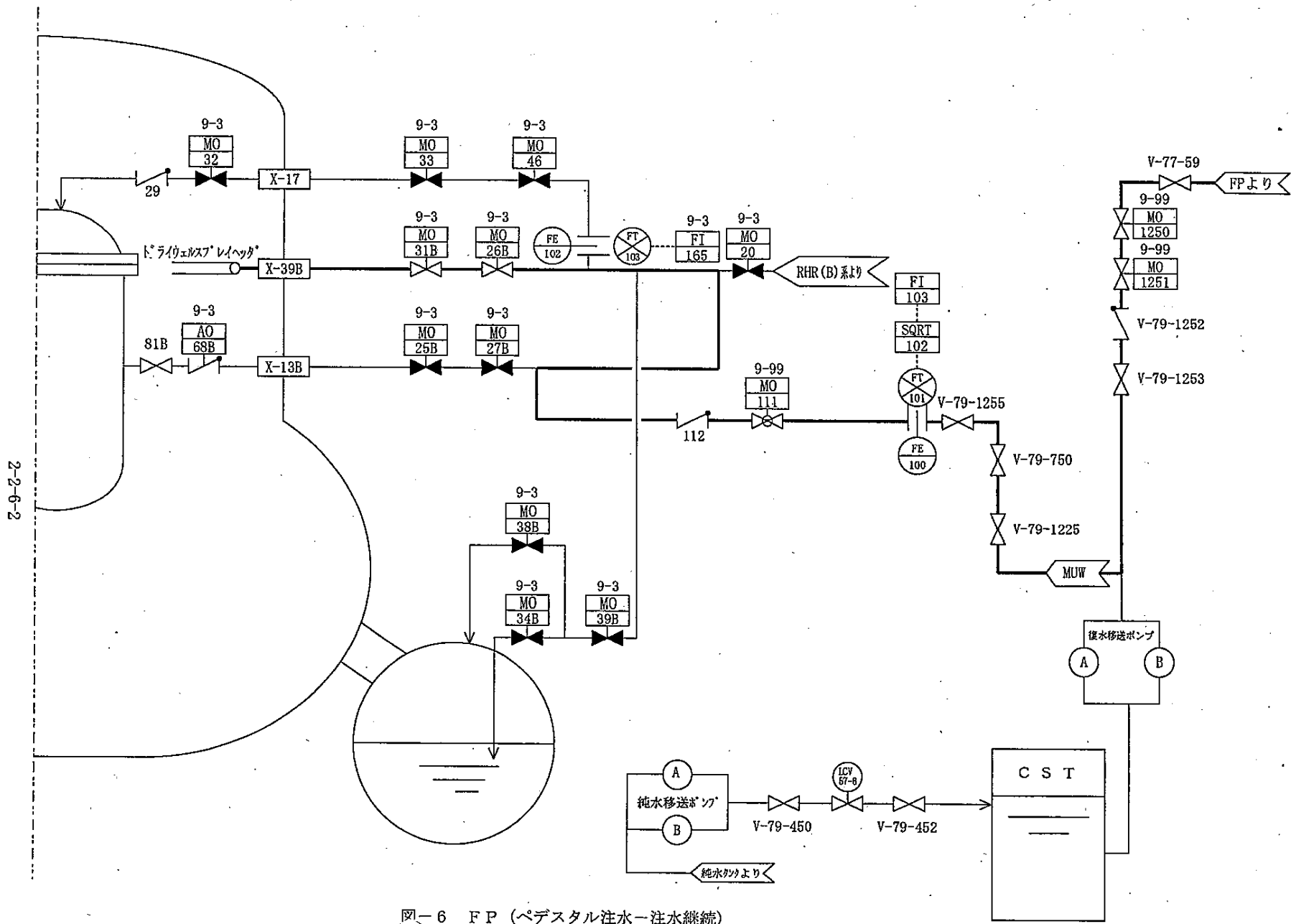


図-6 FP (ペダスタル注水-注水継続)

一般 取扱注意 社内関係者限り 第一運転管理部